

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		9,216	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素換 排出 量 算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		9,216

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
温室効果ガス 総 排 出 量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			%		%		%	%
温室効果ガス みなし総排出量			t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			%		%	%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの 排 出 量	0.1351	t-CO ₂ / m ²	0.1243	t-CO ₂ / m ²	0.1346	t-CO ₂ / m ²	0.1297	t-CO ₂ / m ²	0.1162	t-CO ₂ / m ²
削減率（対 基準年度）		8.0	%	0.4	%	4.0	%	14.0	%
原単位あたりの みなし排出量			t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²
削減率（対 基準年度）			%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

<p>・令和5年度の熱源システムの更新、コージェネレーションシステムの更新により、高効率な設備を構築することができた。</p>

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の推進／冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> 中央監視室における設備の運転時間、冷温水、室温設定のきめ細かな管理 中間期における冷温水温度設定の緩和 クールビズ、ウオームビズの推奨 		<ul style="list-style-type: none"> 季節や、その日の気温・湿度により冷水温度をこまめに調整することで省エネルギーに努めている。
省エネルギー・省資源の推進／冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> ボイラ、冷凍機など経年設備の更新による高効率化 各種ポンプのインバータ化の検討 	数年内の実施を目指す	冷温水機の更新を計画中
省エネルギー・省資源の推進／照明他	<ul style="list-style-type: none"> 照明器具全数のLED化 照明点消灯のスケジュール管理（照明制御） エレベータの時間帯における停止運用 		<ul style="list-style-type: none"> 照明器具不具合（安定器等）時には、逐次LED器具に交換している。 3病棟の照明をLED化した。 照明点消灯のスケジュール管理を実施し、不要な照明を消灯している。 エレベータ利用の少ない時間帯は、台数を減らして運用している。
自動車利用における取組	<ul style="list-style-type: none"> アイドリングストップの確実な励行などのエコドライブを推進 公共交通機関の積極的利用 		アイドリングストップと公共交通機関の積極的利用の継続実施。
職員の省エネ意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー消費実態の見える化（周知） 不要な照明の消灯や不要な空調の停止および設定温度ミニマム化などの周知徹底 		院内ライフライン実績を週単位で見える化し省エネルギー意識を高めている。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

両面コピー、裏紙使用等による紙使用量の削減に努めている。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

ノー残業デイを社内放送で呼びかけることにより、定時退社の意識を高めている。
